

1. 2013年度・2014年度の継続的な取り組みについて

《 国 際 化 》

【学部】「現代日本学プログラム（CJSP）」の推進

G30 予算終了後の 2014 年度以降の継続・推進について議論を進めた。本プログラムのために任期付教員 1 名を採用し、数名分の非常勤講師枠を充てることで学術院内で了承されたことにより、暫定的ながら本プログラムの推進に必要な教員枠の確保が可能となった。

また優秀な学生の確保を目的として、指定校推薦の見直し、大学間協定校からの交換学生の受け入れについて検討中である。

今後は、学部一般プログラムとの相互乗り入れや他箇所プログラムとの連携を強化しつつ、カリキュラム・人事その他について検討を進めていく。

【研究科】現代日本学スペシャリストの養成

2012 年度に開設した研究科「現代日本学プログラム（CJSP）」は、2014 年 9 月に修士課程第 1 期修了生を輩出する予定である。海外の Ph.D. プログラムに進学する者、国際機関におけるインターンの経験を活かしてさらなる活躍の場を模索する者など、修了後の進路はさまざまであるが、引き続き「国際的な舞台で活躍し得る現代日本学スペシャリストの養成」を進めていく。

【学部】中国中期留学プログラムの奨励と留学前後の教育プログラムの実施

2013 年度にスタートした北京大学「中国中期留学プログラム」を積極的に推奨し、10 月には本プログラムに特化した留学説明会を、2 月には派遣決定者に対する出発前オリエンテーションを、それぞれ学部独自に実施している。

2013 年度の第 1 期生として派遣された 7 名の学部生は、中国語力が飛躍的に向上し、プログラムの教育効果が実証された。

2014 年度には、本プログラムを終えた学部生の帰国後の学習効果を更に高めるために、「中国理解を深める一留学講座」を新設した。

【学部・研究科】教育・研究環境における国際化の進展

「現代日本学プログラム（CJSP）」学生および学部・大学院の一般プログラムの留学生の増加、派遣留学の促進等により、教育・研究環境全体の国際化が進んだ。2013 年度には延べ 110 名を超える一般プログラムの学生が英語による CJSP 科目を履修したほか、授業以外でも CJSP および一般プログラムの学生の交流活動が活発に行われ、相互に刺激を与え合う環境が出来上がりつつある。

派遣留学については、それを推奨すべく、学部独自の留学説明会を 2012 年度から毎年 6 月に開催している。派遣留学件数は 2013 年度に前年度比 43% 増となった。

《 学際化・国際化・社会化 》

【学部】コンセントレーション（特定テーマ研究）の導入

コンセントレーション（特定テーマ研究）とは総合的あるいは専門的な科目の集合体であり、社会科学部の特徴である学際性を活かした科目群を複数設置することにより、履修モデルを体系化し、学生が学習する際の指標となることを目的としている。2013 年度に具体化し、2014 年度に次の科目群を設置した。

社会デザイン／サステナビリティ学／リーガル・マインドー法的なものの考え方と議論の技法／法と経済学／日本の社会と公共政策／平和研究／日本の歴史と文化

上記 7 科目群のうち 3 つにおいては、英語による講義および日本語による講義の履修を修了要件とすることにより、一般プログラム、CJSP の学生のコミュニケーション力やプレゼンテーション力の向上を目指している。また計画系の科目群では、実習をとおして学びを社会に還元し、臨床的に活用することが期待されている。

2014 年度秋学期以降に、各コンセントレーションにおける修了要件を満たし、所定の手続きを取った者に対して修了証明書を発行する予定である。

新規のコンセントレーションの設置を検討するとともに、学習効果の検証を行っていく。

【研究科】博士後期課程における研究指導

博士後期課程の研究指導をさらに充実するために、2008 年度より新制度を導入してプロセス、スケジュールなどを整備した。それにより博士論文提出までの計画が立てやすくなったこともあり、2008 年度以降、学位取得者数が増加している。

【研究科】研究科教員へのアンケート調査と問題・課題の確認

2013 年度には研究科教員全員を対象として、現行の専攻・分野体制、カリキュラム、博士論文審査、紀要、入試などの幅広い項目についてアンケート調査を行い、その結果を研究科運営委員会で開示した。また 2014 年度には研究分野別に、「地球社会論専攻」・「政策科学論専攻」という 2 専攻体制および細分化された分野の問題点と見直しに関して意見を聴取した。

これらの調査結果に基づいて、2 専攻体制および分野の再編の可能性について検討する予定である。

2. 2013 年度の取り組みについて

【学部】英語習熟度別クラス編成の実施

2013 年度新入生より、WeTEC のスコアに基づいた習熟度別の英語クラス編成を実施している。入学時および秋学期終了時には全員に対して、春学期終了時および秋学期開始時には半数ずつの学生に対して、WeTEC を受験させて、新制度の効果を検証した。その分析結果は「WeTEC 2013 年度報告書」にまとめられ、2014 年 5 月に提出された。

【学部】学年別成績優秀者の決定と成績優秀者証明書の発行

2013 年度より、学年別成績優秀者（GPA の高順位者上位 5 名）を決定し、本人の希望により、成績優秀者証明書を発行することとした。

【学部】3 年編入学試験・外国人 3 年編入学試験・転部試験制度の見直し

3 年編入学試験・外国人 3 年編入学試験・転部試験それぞれの問題点を整理した結果、いずれも 2016 年度入試から募集を停止することとした。

【学部】3 年卒業制度の初めての適用

極めて優秀な成績で所定の要件を満たし、かつ本人が強く希望する場合に限り、早期の大学院進学または社会での活躍の機会を与えるために、2011 年度入学者より 3 年卒業制度を導入し、2013 年度に初めて 3 名の卒業生を送り出した。

【研究科】博士後期課程早期修了の運用開始

博士後期課程を最短 2 年間で修了できる、博士後期課程早期修了制度の運用を開始した。

【研究科】院生を対象とした改善要望アンケート調査の実施

院生を対象として研究環境に関するアンケート調査を実施した。現在、その結果に基づき、院生の研究環境整備を進めている。

3. 2014 年度の取り組みについて

【学部】ゼミナール I の 4 月開講

2013 年度入学者が 2 年生になる 2014 年度より、これまで 2 年生の秋学期のみの半期科目であったゼミナール I を、春学期から開講することとした。

【学部】実習を授業の一部に組み入れるための検討

2014 年度より、ボランティア活動等の実習を授業の一部に組み入れるための検討を開始した。コンセンレーション科目群の一部において、新宿区の NPO 法人と協力する可能性について意見交換を行っている。

【学部】社会科学部創設 50 周年記念事業の推進

2016 年の社会科学部創設 50 周年に向けて、社会科学部創設 50 周年記念事業実施計画策定委員会から記念事業計画に関する答申が提出され、2014 年 5 月教授会で承認された。現在、それに基づき実行委員会の組織化が進められている。

【研究科】博士論文審査基準の策定

博士論文審査基準を策定した。

4. 2014年度の検討課題（上記以外）

【学部】初年度教育のあり方、ボランティア活動・インターンシップ等の学部教育の組み入れについて、検討する。

【研究科】修士・博士一貫教育の必要性について検討を進める。その際に、必要な基礎科目の設置、他研究科との連携・提携をも視野に入れたカリキュラムの見直し、および Qualifying Exam（修士論文の代替）の導入についても協議する。また、「地球社会論専攻」と「政策科学論専攻」の2専攻体制および細分化された分野の再編についても、具体的に議論する。

以 上